

研究主題「イメージや発想をふくらませ、自分の思いを主体的に表現できる児童の 育成—感覚を働かせながら選んだり決めたりする表現活動の指導の工夫—」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課
立川市立上砂川小学校 主任教諭 児玉 砂織

第1 研究のねらい

平成21年度に実施した国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査（図画工作・美術）調査結果」によると、「図工の学習で発想する力が付くと思っている」児童が93.6%であるのに対し、「学習の過程の中で新しいアイデアを思い付くことがある」という児童は73.4%となっている。発想の力が付くと思っていることと実際にアイデアを思い付くことには、約20ポイントの差がある。実際に図画工作の授業においても、何をつくったらいいのか困って活動が止まってしまう児童がいる。これらの児童には、共通して「何をつくったらいいか迷う」、「何をつくったらいいか決められない」、「自分のアイデアに自信がない」ことが見受けられる。

小学校学習指導要領解説図画工作編では「自分の感覚や行為などを通して生まれたイメージから発想し、自分の表したいことを表すという造形活動の過程を繰り返す中で、資質や能力を培う」と示されている。表現の基盤である発想する力を重視し、一人一人の児童が豊かに発想をふくらませられるような活動を行うことが重要となっている。

そこで、本研究では、自分で選んだり決めたりする活動を柱にして、児童に発想する力を培うことを通し、主体的に表現する態度を育成することを目指す。自分で選んだり決めたりして思いを表現することは、今後生きていく中で、自己決定・自己表現をするための必要不可欠な資質や能力である。自分で選んで決めて作りだしたという喜びを味わわせることにより、自分の思いを主体的に表現できる児童を育成していきたい。

第2 研究仮説

「A表現（1）造形遊び（2）絵や立体、工作に表す活動」において、材料など形や色や質感から感覚を働かせ、選んだり決めたりするために、自分の手などで見比べるなどの表現活動における指導の工夫をすれば、児童はイメージを大切にしながらさらに発想をふくらませ、自分の表したいことを主体的に表現することができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 基礎研究

小学校学習指導要領解説図画工作編や文献、先行研究から、以下のことを明らかにした。

(1) 小学校図画工作科で育成したい資質や能力と児童の発達の特性について

ア 「発想や構想の能力」において、中学年で発想する力を十分に培わせることが、構想する力の育成につながっていくことが分かった。

イ 文献研究により、本研究における主体的な児童とは、「イメージや発想が豊かで、自分の思いや考えを自ら作りだす喜びを味わっている児童」とすることを定義付けた。

(2) 発想する力や主体性を培う指導方法について

材料などを選んだり決めたりする活動について、①題材設定、②題材指導計画、③授業構成、④指導方法の四つの視点からの授業改善が必要であることが分かった。

2 調査研究

発想する力に関する指導の実態や児童・教師の意識を明らかにするため、都内公立小学校第3・4学年286名及び教師101名を対象に質問紙調査を行った。「材料などを見たりさわったりすることでアイデアを思い付く」と回答している児童が68.6%であるの

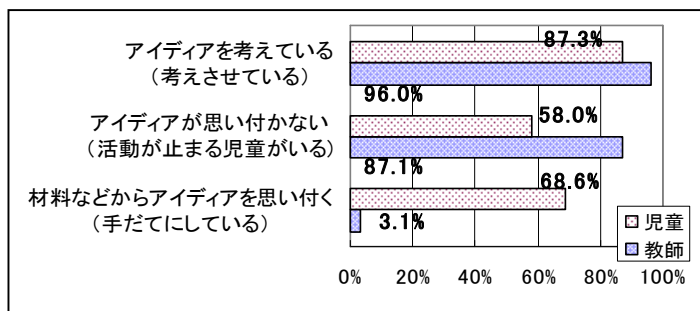


図1 アイディアに関する児童と教師の意識調査

に対し、アイデアが思い付かず活動が止まってしまう児童に「様々な材料などを用意する」と回答した教師は3.1%であった(図1)。また、児童が自分のアイデアをすばらしいと思う理由を問う設問では、「うまくできたから」「自分で考えたアイデアだから」が上位に挙げられた。

このことから、具体的に材料に触れさせる機会を多く設定したり、自分の作品に満足感をもたせたりすることが、表現活動に自信をもたせ、主体的に表現することができる児童を育成することにつながると考えた。

3 開発研究

(1) 題材の開発

中学年のA表現(1)【造形遊び】とA表現(2)【絵や立体、工作に表す】の領域において、アイデアを想起させるために、題材名やねらいに応じた多様な材料の工夫をした特性のある題材を、小学校学習指導要領解説図画工作編を基に以下のように開発した(表1)。

	題材名	授業回数	学習内容と研究の視点からの工夫
A表現(1)	「ふしぎなお気に入りシート」 第3学年	各2時間	内容 透過性のある材料を切ったり組み合わせたりして試しながら、思い付いたものを表す活動。 工夫 光の当たり方や色の重なり方からイメージを広げやすい、透明シートやセロファンなどを扱う。教室の空間をつくりかえながら、発想をふくらませられる。
	「ペーパーランドで遊ぼう」 第4学年		内容 様々な色や質感の紙などを切ったり貼ったり組み合わせたりして試しながら、思い付いたものを表す活動。 工夫 様々な形状のイメージを広げやすい身近な紙類などを扱う。図工室の空間をつくりかえながら発想をふくらませられる。
A表現(2)	「すてきなペタペタ○○○」 第3学年	各6時間	内容 スタンプの写り方を試しながら、自分の表したいことに合わせて材料の形やインクの色を選んでスタンプをする活動。 工夫 形やインクの色からイメージを広げて、表し方を工夫しやすい様々な形状の梱包材・波状ダンボールなどを扱う。
	「わくわくキラキラ? はてな ワールド」 第4学年		内容 キラキラ光る紙の形や色から、自分の表したいことに合わせて半立体にするなど、材料や表し方を選んでつくる活動。 工夫 可塑性があり、光の反射からイメージを広げて、表し方を工夫しやすいカラーアルミ加工紙やアルミ素材などを扱う。

表1 発想する力を培う題材開発

(2) 「発想する力を培うための題材の年間指導計画表【第3・4学年】」の作成

年間を通してより効果的に指導するために、題材の年間指導計画表を考えた。

(3) 「発想する力を培うための指導方法に関する系統表【第3・4学年】」の作成

発想する力を培うために効果的と考えられる具体的な手だてを、縦軸を教師の指導の工夫、横軸を児童の活動場面とし、段階に分けて表にまとめた(表2)。

		発想する力を培う児童の活動					児童の活動場面
		① 題材や材料と 出会う	② 試す ＜試行錯誤＞①	③ 選ぶ （選び方）	④ 決める 【決め方】	⑤ アイディアの 組み立て方 ＜試行錯誤＞②	
教師の指導の工夫	出 会 わ せ 方 の 工 夫	● 材料の山から、少しずつ材料を見せて期待感をもたせたり、一気に見せて驚きをもたせたりする。 ● テーマに合わせた物語を短く話し、イメージをもたせる。	● 材料を一部分だけ短時間児童に与え、試し活動をさせる。 ● 一つの材料でも、見たり触ったりした感じから「～に見える」「～みたい」と見立ての違いを楽しませる。	● 様々な材料を選ばせる前に、見せたり触らせたりする時間をとる。 ○ どんなことができるか、考えながら選ばせる。	◎ 自分の表したいことに合う材料の中で、1番使ってみたいものを決めさせる。	◎ 表したいことを選んだり、アイデアを組み合わせてもよいことを伝える。 ● 材料を見て、そのよさや面白さから、アイデアを考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ● A 表現 (1) (2) 共通の手だて ○ A 表現 (1) ◎ A 表現 (2) 特有の具体的な手だて

表2 発想する力を培うための指導方法に関する系統表【第3・4学年】※一部抜粋

4 検証授業

(1) 検証授業の概要

都内公立小学校において、第3・4学年を対象に発想する力を培い、主体的に表現できる児童を育成するために開発した題材において、全16時間分の検証授業を行った。

授業改善の視点から位置付けた主な手だては、以下のとおりである。

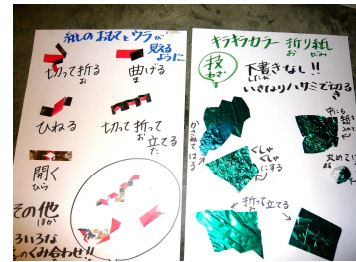


図2 材料の生かし方の掲示物

① 題材設定について

発想を広げるために題材を開発し、発達の特性に合った魅力的で多様な材料などを用意して活動に意欲をもたせた。

② 題材指導計画について

- ・ 【造形遊び】で材料に触れてつくったりつくりかえたりする経験を十分にさせ、【絵や立体、工作に表す】での試す活動を通してアイデアを思い付かせた。
- ・ 第4学年の【造形遊び】と【絵や立体、工作に表す】で、材料としての紙類を系統的に扱う学習を行った。

③ 授業構成について

- ・ 材料に触れて試す活動を毎時間設定して、材料の特性を生かした表し方を考えさせた。
- ・ 振り返りカードを活用して児童が自己評価する活動を毎時間設定し、次時への意欲をもたせた。

④ 指導方法について

- ・ 材料などを選ぶとき、教師が選び方のルールを示したり感覚に働きかけたりするような提示の仕方を工夫した(表2)。
- ・ 材料の生かし方などの例を掲示物で示し、児童が試したりアイデアを浮かべたりする方法を視覚的に分かりやすく伝える板書や場の設定の工夫をした(図2)。
- ・ 振り返りカードで「もう少し」と自己評価した児童の記述を生かし、次の授業で、困っていることに関する具体的な指導や支援の方法などを工夫した。
- ・ 児童が工夫してつくったところを賞賛したり、アイデアが浮かばずに困っている児童に対してアイデアの例を挙げたりして、個に応じた声掛けの方法を工夫した。

(2) 児童の変容

振り返りカードによる自己評価、教師の観察、動画や作品からの見取り及び、事前調査、事後調査から児童の変容を検証した。

ア 児童全体の変容

振り返りカードでは、「アイデアを思い付くことができた」と93.3%の児童が回答した(図3)。また、事前調査と事後調査を比較すると、「アイデアを思い付く」と回答した割合が、授業後に20ポイント以上増加した。材料などを通してアイデアを思い付く手だてを具体的に児童に与えたことが、「自分のアイデアを素晴らしいと思う」割合の増加にも表れている(図4)。

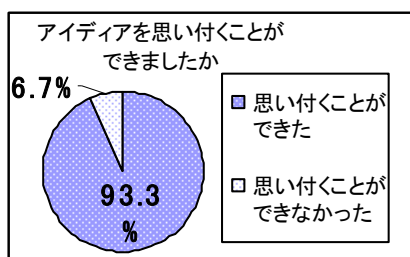


図3 振り返りカードにおける児童の自己評価

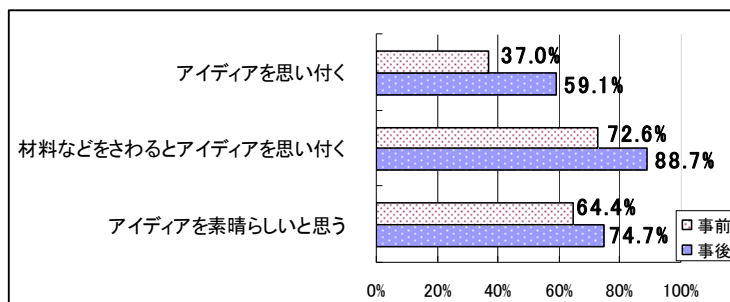


図4 事前調査、事後調査における児童の変容

イ 個の変容

振り返りカードで、すすんで活動することやアイデアを思い付くことに対して「もう少し」と自己評価した児童が、授業を重ねる中で主体的に表現活動できるようになった。

また、事後調査で自分のアイデアを素晴らしいと思う理由として、「自分のやりたかったアイデアだから」「考えたアイデアがうまくできたから」「自分にとってよかったから」などの肯定的な記述が見られた。

(3) 変容の考察

「材料などを選んだり決めたりする」ということについて①題材設定、②題材指導計画、③授業構成、④指導方法の四つの視点に基づき、具体的な手だてを位置付けて授業改善をしたことが、児童の変容につながったと考える。また、自分で考えたアイデアで表現できたことが、児童の自信や意欲につながったと考える。



図5 児童の活動の様子

第4 研究の成果

- ・ 自分で考えて表現する喜びを味わわせるために、発想する力を培う具体的な指導の手だてをとることが、主体的に表現できる児童の育成につながることが分かった。
- ・ 指導と評価を一体化させて、一人一人の児童の学習状況を常に教師が把握し、児童理解を深めた上で具体的な指導や支援を行うことが重要であることが分かった。

第5 今後の課題

- ・ 【A表現(2) 絵や立体、工作に表す】領域で、粘土や木工などの題材での有効性についても検証する。
- ・ アイデアを形にするための基礎的・基本的な技能の指導を、年間指導計画や各題材の中にどのように設定するのかを検討する。